

令和2年度 岐阜市障害者総合支援協議会 第3回専門部会 議事要旨

日 時	令和2年11月18日(水)
	15:30～16:30
場 所	岐阜市役所 大会議室
出 席	相談支援事業所等 15か所、15名
	児童発達支援事業所 3か所、3名
	高度専門分野相談支援事業所 3か所、3名
	基幹相談支援サテライト 4か所、4名
	関係機関 6か所、6名
	(合計31か所、31名)

○テーマ・・・「医療的ケア児の支援について」

近年、医療技術の進歩等を背景に、在宅で生活する医療的ケア児（人工呼吸器、吸引、モニター測定など日常生活を営むために医療を要する状態にある児童）が増加している。今回の専門部会は、岐阜市在住の医療的ケア児の日常生活や、保健・医療、福祉、教育の各分野それぞれの関りについて知り、学ぶ機会とした。

【現状について】

障がい福祉課より、医療的ケア児と重症心身障害児との違いを説明。岐阜市内在住の親子に協力をいただき、家族との関りや思い、訪問診療、訪問看護、児童発達支援事業所、聾学校母子通園時の状況など映像を視聴。聾学校や相談支援専門員から医療的ケア児だけでなく、家庭への関わり方や現状、課題など話をした。岐阜県立看護大学茂本氏より「母は普通に生活したいと希望。家族と関係機関が気軽に話せる関係を築き、課題を柔軟に受け止めている。家族と関係機関が本児の成長を一緒に喜び、支援を考えていけるとよい。」と話があった。

【まとめ】

新型コロナウイルス感染症対策のため、参加事業所等を絞り込んで、体温測定や手指消毒を行い、グループワークなど実施せず開催した。保健・医療、福祉、教育の各分野が岐阜市在住の医療的ケア児の日常状況や支援状況を映像で視聴し、実際を知ることができた。グループワークは実施しなかったが、それぞれが医療的ケア児や家族、支援者の関りについてより深く理解し、必要な支援について考える機会となった。

「今後は保健・医療、福祉、教育分野がそれぞれの役割等について相互理解し、家族と一緒に将来を見据えて考えていきたい。」「色々な関係機関の連携、サポートの重要性について検討していきたい。」等意見があった。医療的ケア児・者の支援について、保健・医療、福祉、教育分野がそれぞれの役割について理解し、支援について検討する場を継続的に持っていけるとよい。